

ありだし 社協 だより

あがらが主役
あがらが創る
あがらのまち

2021
9



小学校6年生児童代表が
毎月将来の夢を発信！
10年後、成長した姿を
地域の皆さんに発信します！



港小学校 6年生



将来の夢

初島小学校 6年生



有田市社会福祉協議会
HPはこちら



NEXT ▶ 次号は、保田小学校から「夢」発信！

社協だよりは、「赤い羽根共同募金」配分金と寄付つき商品事業「JUST」による寄付金の一部で発行させていただいています。

閉校目前!だからこそ中学生に初島を知ってほしい!

初島地区の有志で結成された「チーム六桜花」は、元々はつどいの場を作る目的で動き出しましたが、初島中学校が先行して閉校となることから、昨年度から中学生へのアクションを始めました。

それは、「中学生に初島町をもっと知ってほしい」「中学生が初島で過ごす時間が減ってしまう前に、地域との接点をつくっておきたい」「閉校することに地域も思いはないのだろうか」という考えからでした。

そうして、昨年度は「ふるさと学習」という授業プログラムを考案し、まずは、初島の歴史や地場産業、伝統技術を伝えました。今年、小・中学校運営協議会とともに、初島でがんばっている「人」をつなぐ授業がスタートしました。

地域で暮らす大人が、こどもたちに伝えたいメッセージを学校も一緒に考えてくれます。地域と学校が双方向でじぶんのまちについて考えていけるといいですね。



有田市教育委員会
教育長
前田悦雄氏



有田市教育委員会では「認め合い、学び合い、郷土を愛する子供の育成を図る～小中連携を通して～」を目標に学校教育を進めています。

以前より、各学校において地域と結びついた教育活動が展開されてきましたが、さらに「地域とともにある学校」づくりを進めるため、平成29年度より市内すべての小中学校にコミュニティ・スクールの仕組みを導入しました。コミュニティ・スクールは、育てたい子供像、目指すべき教育のビジョンを学校が地域と共有し、一体となって子供たちの成長を支えていくことをねらいとしています。

学校と地域との連携・協働をうまく機能させることにより、子どもたちの郷土を大切に思う心を育むとともに、学校を核として地域づくりができれば素晴らしいと考えています。



社会福祉協議会は、有田市のいろんなところで

災害に強いまちづくりは、地道な活動から始まります

野自治会は、社会福祉協議会の防災モデル地区としてこの数年、様々な取組を進めています。「緊急安心カード」(一人暮らし等の事前登録による状況把握)の導入や、「コミュニティ・タイムライン」についての学習会、「防災まち歩き」とステップを踏んで自治会として考える機会をもってきました。去る7月17日には、消防団や自主防災組織が主体となって、高齢者や避難行動要支援者、小中学生を対象とした避難訓練を実施しました。参加者の中には、登録している「緊急安心カード」を携帯している方もおられました。9月には市内一斉避難訓練も実施予定で参加を促しています。

防災において、もちろんこうした地道な訓練も大事なのですが、それと同じぐらいこういった機会に住民同士が顔を合わせ、言葉を交わすということが大切です。

現在は、コロナ禍にあり、祭りなどの地域行事が縮小・中止されることが多いのでなおさらです。



有田市福祉課
課長
松村尚彦氏



野自治会では地域内の企業や学校との連携をはじめ、さらに今年度は高齢や障害などの理由により自力での避難が難しい方(避難行動要支援者)にも参加を呼び掛けるなど、地域のなかで互いに助け合う意識の醸成に積極的な取り組みをされています。

このような日頃の地道な取り組みが地域の絆を強め、地域の防災力向上に繋がっていくものと思います。

引き続き、家庭・地域・行政がそれぞれの立場で、地域から被害を出さないようともに取り組んでいきましょう。

コロナ禍でも健康増進!

有田市老人クラブ連合会 健康ウォーキング!



有田市老人クラブ連合会では、和歌山県老人クラブ連合会からモデル指定を受けて、「健康ウォーキング推進事業」に取り組んでいます。市内に9つある地区老人クラブ連合会が中心となって、コースの選定や参加者取りまとめなど、主体的に活動しています。また、感染防止に配慮するために、独自の感染予防ガイドラインを決めています。

参加者の皆さんは、「ただ歩くだけやのに、みんなで歩くんええなあ」と口々におっしゃっていました。昨年度から感染予防のために集合形式でのイ

ベント等は中止が続いています。そんな中だからこそ、「ただ歩く」ことにも意味があることに気づけたのかも知れません。暑い間は熱中症対策も加わりますが、感染防止に努めながらのウォーキングで健康増進はいかがですか。誰もが気軽にでき、費用もかからないウォーキングの習慣を定着させ、体力保持を心がけましょう。

「歩く」ことの重要性

都会の人は日常、電車を乗り継いで移動するため歩く距離が多くなりますが、田舎に行くほど移動の手段はもっぱら車であり、歩く機会が少なくなりがちです。歩行は人の筋肉の中で最も大きい大腿の筋肉を使うので、効率的にカロリー消費を行うことが出来ます。そして足裏には東洋医学でいうツボがたくさんあり、足裏が刺激されると血液循環がスムーズとなり内臓機能の活性化や骨粗鬆症の進行抑制が期待できます。また認知症予防にも最適と言われ、高齢化が進む有田市では「健康ウォーキング」が益々推奨されます。



有田市社会福祉協議会評議員
有田市医師会会長
中村吉伸氏

いろいろな人と「学び」や「参加の機会」をつくっています。

まちのあちこちに 認知症サポーター がいます!

現在2,374名の方が
サポーターとして
活躍中!

「認知症」を正しく理解し、地域の中で温かく見守ってくれるサポーターを養成しています。

「住み慣れた地域で、いつまでも自分らしく生活したい。」誰もがそう願っていることと思います。

認知症はだれでもなる可能性のある病気です。いつ自分や家族、友人がなるかもわかりません。

有田市社会福祉協議会では、市民の皆さんに「認知症」を正しく理解し、地域の中で温かく見守ってくれるサポーターを養成しています。これまでも、小中学生から地域住民、郵便局の皆さん、一般企業等幅広い世代の方々に認知症サポーター養成講座を受けて頂いています。



認知症サポーターとは「特別な何か」をする人ではありません。認知症の方やその家族を見守り、支える地域の応援役です。

皆さんも認知症サポーターとして「認知症になっても安心して暮らせるまち有田市」を一緒に作っていきませんか。

少人数での開催も可能です。お気軽にお問い合わせください。
(お問い合わせ 有田市社会福祉協議会 88-2750 担当 木原・川口)

有田市様と市内6郵便局は去る6月2日、有田市の住民サービスの向上、地域の一層の活性化等を図ることを目的として、『包括的連携に係る協定』を締結しました。

今回、社会福祉協議会様のお力添えで郵便局社員全員が認知症サポーターとなりました。

市民の皆さまには、郵便局を安心・安全の拠点としてぜひとも活用していただきたいと思ひます。



有田初島郵便局
局長
則松敏文氏



今年も「じぶんの町を良くするしくみ」をスローガンに、赤い羽根共同募金運動が10月1日から始まります。この運動は、民間の社会福祉事業を支援するための募金として「社会福祉法」に位置づけられ、全国一斉に展開されます。

和歌山県内で寄せられた募金は、県共同基金会通过し、高齢者、障がい児者、子どもたちへの福祉活動のほか、様々な福祉課題に取り組むボランティア活動等、社会福祉事業の貴重な財源となっています。

有田市では、小中学校への図書寄贈、保育所・幼稚園への知育玩具の寄贈、高齢者の生きがい作りや健康増進の活動、福祉教育、ボランティア活動の推進等、地域の身近な活動に使用させていただいています。

皆様のご支援とあたたかいご協力をお願いいたします。

有田市共同募金委員会
(有田市社会福祉協議会内)

共同基金では、被災地への災害義援金を受け付けています

7月に発生した豪雨災害の被災者を支えるため、下記の共同基金が義援金を募集しています。各共同基金に届いた義援金は、行政が設置する義援金配分委員会を通し、全額が被災者に届けられます。(中央共同基金への送金分は、被災状況に応じて下記県に按分されます。)

共同基金	金融機関	口座番号等	口座名義	募集期間(※)
島根県	ゆうちょ銀行	00930-1-325071	島根県共同基金 令和3年7月大雨災害義援金	9/30まで
静岡県		00920-4-238696	静岡県共同基金 令和3年7月大雨災害義援金	10/29まで
中央	りそな銀行 東京公務部	普通預金0126781	(福)中央共同基金	9/30まで

※ 島根県・静岡県共同基金へのお振込は、ゆうちょ銀行の窓口での送金手数料は無料となります。

※ 募集期間は延長される可能性があります。

※ 最新の義援金募集状況詳細は、「中央共同基金令和3年7月大雨災害特設サイト」をご参照ください。

有田市社会福祉協議会の窓口でもお預かりしています。
本会から、寄付者のご指定の共同基金に送金します。

まちづくり ワークショップ

有田市のあんなことやこんなこと
和歌山大学生と一緒に考えてみませんか？

地域の住民視点×外部の視点

地域の課題を新しい視点から考え、解決へ

日時 第1回：9/20(月・祝)
第2回：10/2(土)
(両日とも13:30～)

場所 有田市消防庁舎5階

第3次地域福祉活動計画策定の一環で、和歌山大学観光学部箕島LIPの大学生たちと企画し、河北エリアの中学生以上の皆さんとまちづくりワークショップを開催します。

事前学習をした大学生たちに有田市の現状を伝える中で、住民自身がその魅力と課題に気づき、解決において考える作業をおこないます。

対象 初島・港/箕島・宮原の小校区に在住、
または在勤の方2回共参加できる方 若干名
申込 電話 0737-88-2750 定員になり次第締切

※但し、感染状況によって大学生の参加形態を変更することや、ワークショップを中止することがあります。中止の場合は参加者に直接ご連絡しますので、あらかじめご了承ください。